

2023年3月14日

各 位

会 社 名 株式会社IDホールディングス
代表者名 代表取締役社長 船越 真樹
(コード：4709 東証プライム)
問合せ先 コーポレート戦略部長 荒木 靖博
(TEL.03-3262-5177)

プライム市場の上場維持基準の適合に向けた計画書

当社は、2022年12月末日時点において、プライム市場における上場維持基準を充たしていないことから、下記のとおり、プライム市場の上場維持基準の適合に向けた計画書を作成しましたので、お知らせします。

記

1. 当社の上場維持基準の適合状況および計画期間

当社の2022年12月末日時点におけるプライム市場の上場維持基準への適合状況に関しては、1日平均売買代金について基準を充たしていません。当社は、上場維持基準を安定的に充たすために各種取組みを進めます。

なお、計画期間につきましては、中期経営計画「Next 50 Episode II 『Ride on Time』」の達成状況等が株価にて評価される2025年3月期までに上場維持基準の充足を目指します。

[ご参考]中期経営計画「Next 50 Episode II 『Ride on Time』」の詳細は、別紙をご参照ください。

	1日平均売買代金 (百万円)
当社の状況 (2022年12月末日時点)	17.9
上場維持基準	20

※当社の状況は、東京証券取引所が2022年1月1日～12月31日を対象として当社の1日平均売買代金を算出したものです。

※1日平均売買代金以外の項目につきましては、上場維持基準を充たしていることを確認しています。

2. 上場維持基準の適合に向けた取組みの基本方針および課題

(1) 基本方針

中期経営計画に基づき、高付加価値サービスへの転換による事業変革ならびに事業拡大を着実に進めるほか、株主還元施策の推進、IR活動の充実、コーポレートガバナンスの強化、サステナビリティ活動などに取り組み、中長期的な企業価値を向上させることで、上場維持基準を充たしていきます。

(2) 課題

当社は、上場維持基準のうち、「1日平均売買代金」の基準を充たしていません。売買代金は、「株価」および「売買高」が構成要素となるため、企業価値の向上ならびに株式市場での適正評価による当社株価の上昇と、当社株式の流動性の向上が課題と捉えています。

3. 課題解決に向けた取組み内容

(1) 株価の上昇に向けた事業成長による企業価値の向上

当社は中期経営計画にて、2025年3月期に売上高320億円、営業利益25.5億円の達成を計画しています。足元のPER水準をもとに、1株あたり当期純利益(EPS)から株価を算出すると、足元の売買高水準を維持した場合に、理論上、上場維持基準を上回る見込みです。

くわえて、足元の堅調な業績を受け、中期経営計画の数値目標に関しては現在見直しをしています。当初計画した中期経営計画以上の数値達成を実現することで、さらに企業価値を高めていきます。

※詳細は、3ページ目の「【ご参考】2025年3月期の1日平均売買代金シミュレーション」を参照ください。

(2) 株式の流動性の確保

① 株主還元施策の推進

当社は、株主の皆さまに対する利益還元を経営の重要課題のひとつとして認識し、強固な経営基盤の確保、安定収益、および自己資本利益率の向上に努め、業績に裏付けられた適正な利益配分を継続することを基本方針としています。この10年間を振り返ると、2013年3月期以降、増配を7回、株式分割を2回実施し、配当金額は約4.2倍に増加しています。

さらに、今期の堅調な業績動向を踏まえ、株主の皆さまへよりいっそうの利益還元を図るべく、本日(2023年3月14日)公表した「配当予想の修正(増配)に関するお知らせ」とおり、2023年3月期の年間配当予想を、中間配当20円00銭を含め、40円00銭から45円00銭に修正します。今後も事業成長に応じた株主還元施策の強化に努めます。

② IR活動の充実

投資家とのコミュニケーションの促進を図るため、IR活動にも積極的に取り組んでいます。

■ 取組み実績(2023年3月期)

- ・機関投資家向け決算説明会(2回)、個人投資家向け説明会(4回)、
その他個別のIRミーティング(23件、内海外向け5件)の実施
- ・決算補足説明資料、ファクトブック等IRツールの開示(12件)
- ・決算短信をはじめとした主要な開示資料の英文開示(13件)
- ・四半期決算情報を日/英文メールにて配信 等

また、直近では招集通知のビジュアル化や議決権電子行使プラットフォームへの参加など、株主目線での利便性向上を目的とした取組みを実施してきました。今後は上記の活動を継続するとともに、以下の取組みを進めます。

■ 今後の取組み(2024年3月期より実施予定)

- ・株主情報を活用した、半期ごとの投資家ターゲットティングの実施
- ・IR方針の変更による、ミーティング機会の拡充 等

(3) 中長期的な企業価値の向上

① サステナビリティへの取組み

さらなる中長期的な企業価値の向上を目指し、サステナビリティへの取組みを積極的に進めています。

■ 取組み実績 (2023 年3月期)

- ・行政におけるDX推進および地方共生を目的とした、鳥取県江府町との協定締結
- ・本社ビルでの使用電力を再生可能エネルギーに変更したことによる、温室効果ガス排出量の削減
- ・女性ならびに外国籍人材の活用と管理職候補の育成

[ご参考] 女性社員・外国籍社員の状況 (2022 年 12 月末日現在)

女性社員比率	女性管理職比率	外国籍社員比率	外国籍管理職比率
24.8%	16.9%	8.1%	4.2%

今後は上記の活動を継続するとともに以下の取組みを進め、中長期的な企業価値の向上を目指します。

■ 今後の取組み (2024 年3月期第1四半期中に有価証券報告書等で開示)

- ・サステナビリティに関する考え方および取組みに関する開示の拡充
- ・人材育成や社内環境整備など、人的資本に関する方針の策定と開示
- ・気候変動に関連した情報開示の拡充

② コーポレートガバナンスの強化

取締役会の機能向上と活性化を目指し、2016 年より毎年第三者評価機関による実効性評価を実施しています。今後は、さらなる企業価値の向上に向けて、より実効性の高い評価プロセスを導入するべく、第三者評価機関の見直しを計画しています。

【ご参考】2025 年3月期の1日平均売買代金シミュレーション

① 予想株価 = EPS (1株あたり当期純利益) × PER (株価収益率)

$$\begin{aligned} &= (\text{当期純利益} \div \text{発行済株式数}) \times \text{PER} \\ &= (15.3 \text{ 億円}^{*1} \div 18,066,453 \text{ 株}) \times 14^{*2} \\ &= 1,185.62 \text{ 円} \\ &\approx 1,185 \text{ 円} \end{aligned}$$

*¹2025 年3月期の営業利益 25.5 億円に対する予測当期純利益 (0.6 を乗算)

*²2022 年3月期の1株当たり純利益 (EPS) 61.61 円を 2022 年1月～12 月末までの月次終値平均の平均値 866.36 円で除算して算出した PER (14.06 を小数点切捨て)

② 直近 12 か月 (2022 年1月～12 月) 平均売買高

$$\begin{aligned} &= \text{1日平均売買代金 } 17,956,740 \text{ 円} \div \text{平均株価 } 866.36 \text{ 円} \\ &\approx 20,727 \text{ 株} \end{aligned}$$

③ 2025 年3月期の1日平均売買代金

$$\begin{aligned} &= \text{2025 年3月期の予想株価 (①)} \times \text{直近 12 か月の平均売買高 (②)} \\ &= 1,185 \text{ 円} \times 20,727 \text{ 株} \\ &= 24,561,495 \text{ 円} \end{aligned}$$

以上



2023年3月期～2025年3月期
中期経営計画

Next 50 Episode II 「Ride on Time」

Change or Die!

当社ウェブサイトへの
アクセスができます。

株式
会社 **ID**ホールディングス

東京証券取引所 プライム市場
証券コード 4709

©2023 ID Holdings Corporation. All Rights Reserved.



DX投資の時流を捉え、サービスの高付加価値化でさらなる事業拡大へ

■ 中期経営計画

Breakthrough 200!

I-vision 50

Next 50 Episode I 覚醒

新中計 Next 50 Episode II へ

売上高 200億円を突破

265億円まで成長

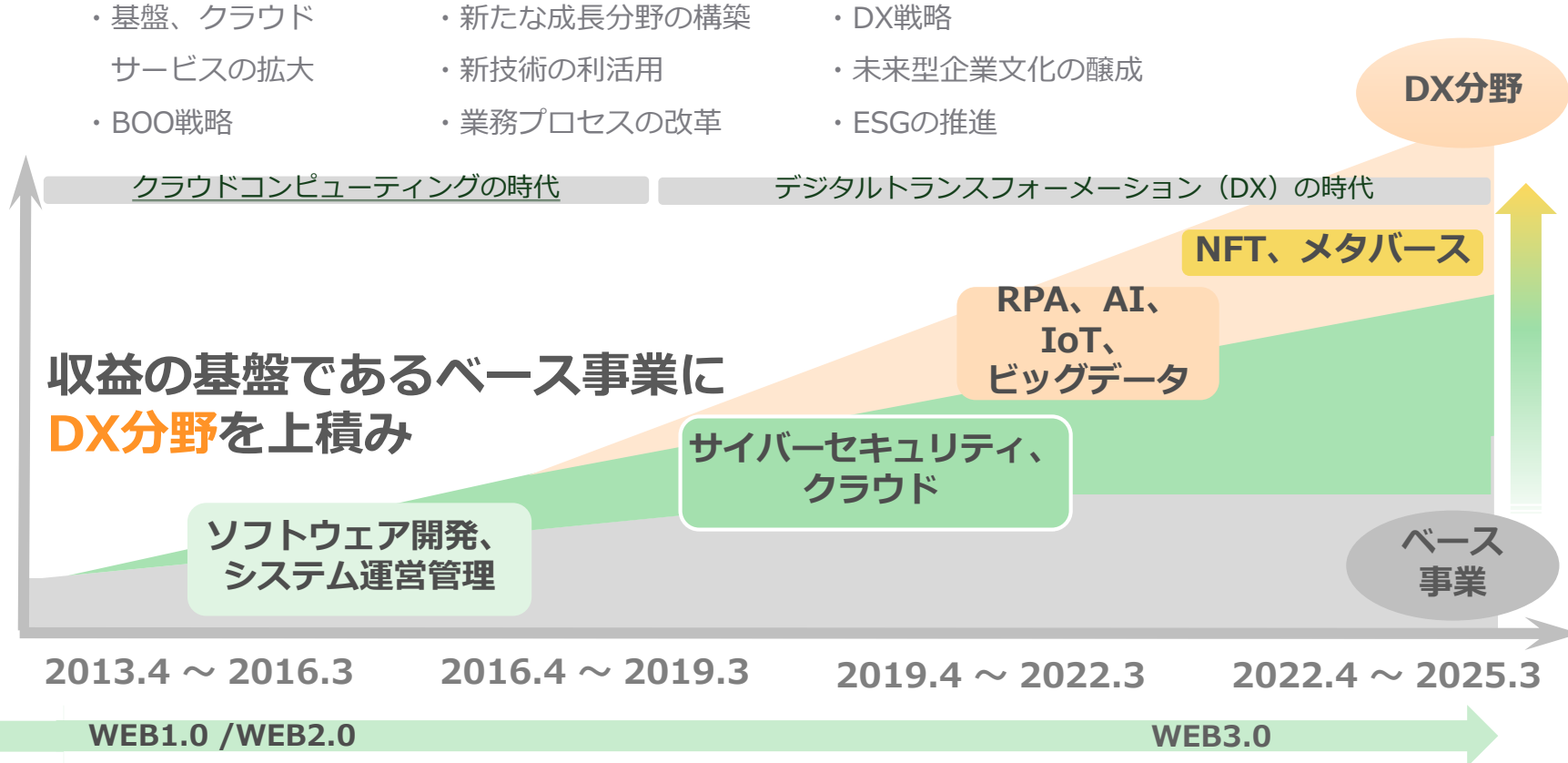
過去最高の278億円

■ 基本方針

- ・ 基盤、クラウドサービスの拡大
- ・ BOO戦略

- ・ 新たな成長分野の構築
- ・ 新技術の利活用
- ・ 業務プロセスの改革

- ・ DX戦略
- ・ 未来型企業文化の醸成
- ・ ESGの推進



※ベース事業とはシステム運営管理、ソフトウェア開発、ITインフラ、サイバーセキュリティなどのこと。

5つのステークホルダーへ **Waku-Waku** する未来をお届けする
ITエンジニアリングパートナーを目指して。ともに **Ride on Time!**

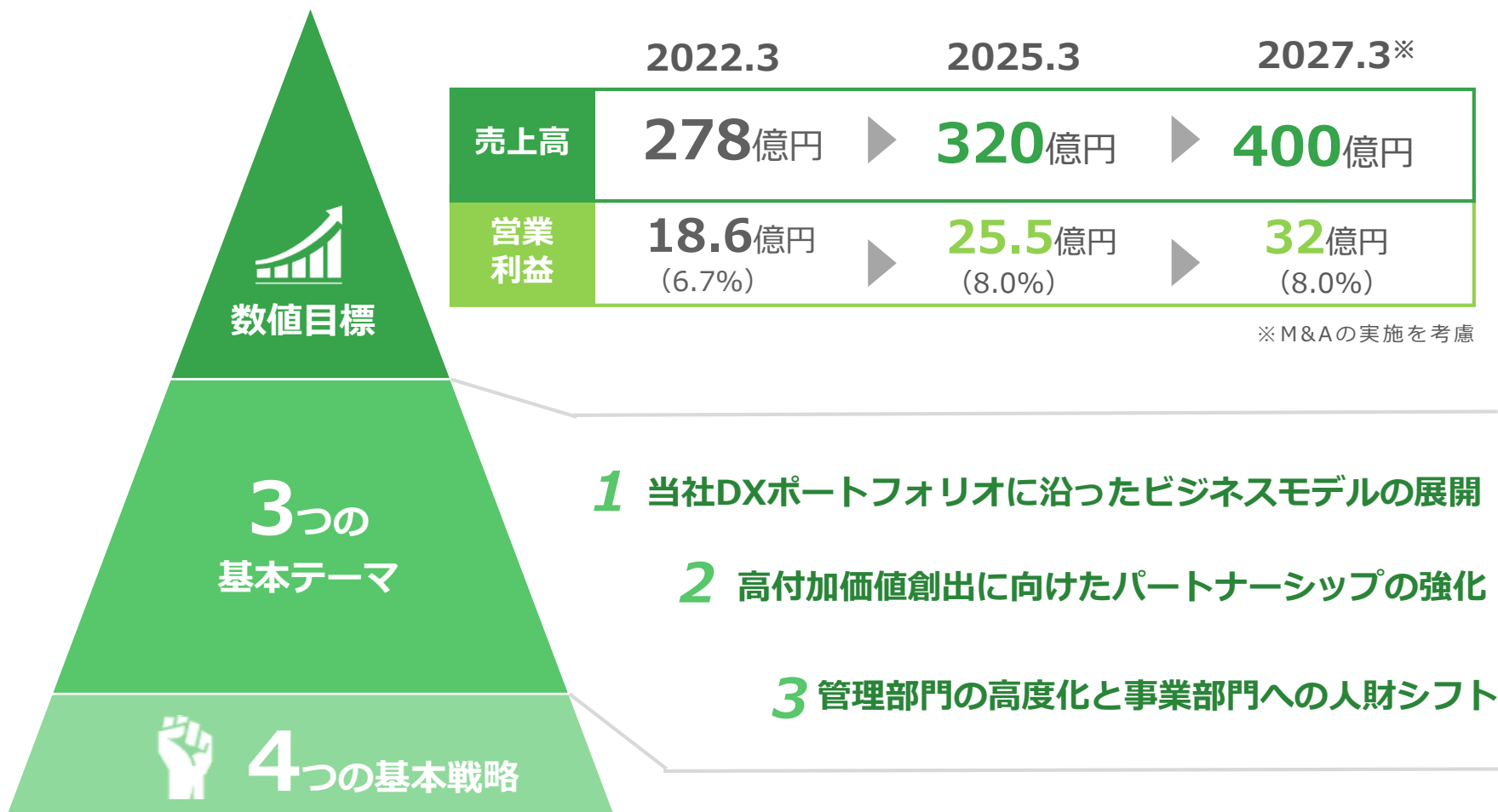


Change or Die!

Next 50 Episode II 「Ride on Time」

企業価値の向上と、従業員やBPへの還元で、さらなる成長サイクルの実現へ！

Change or Die!



ITサービス戦略

よりニーズの高い技術領域を定め、パートナー企業との連携による顧客のDX推進支援や成長分野を対象とした自社ソリューション開発に努めます。



人財戦略

DXサービスの拡大や高付加価値化の実現に向けて、研修制度をさらに充実し、中上級技術者および企画提案人財の育成を加速します。



社内基幹システムの刷新などによる業務の効率化・高度化に努めるとともに、スマートな管理部門の構築を図り、事業部門への人員の再配置を進めます。

ニューノーマル戦略

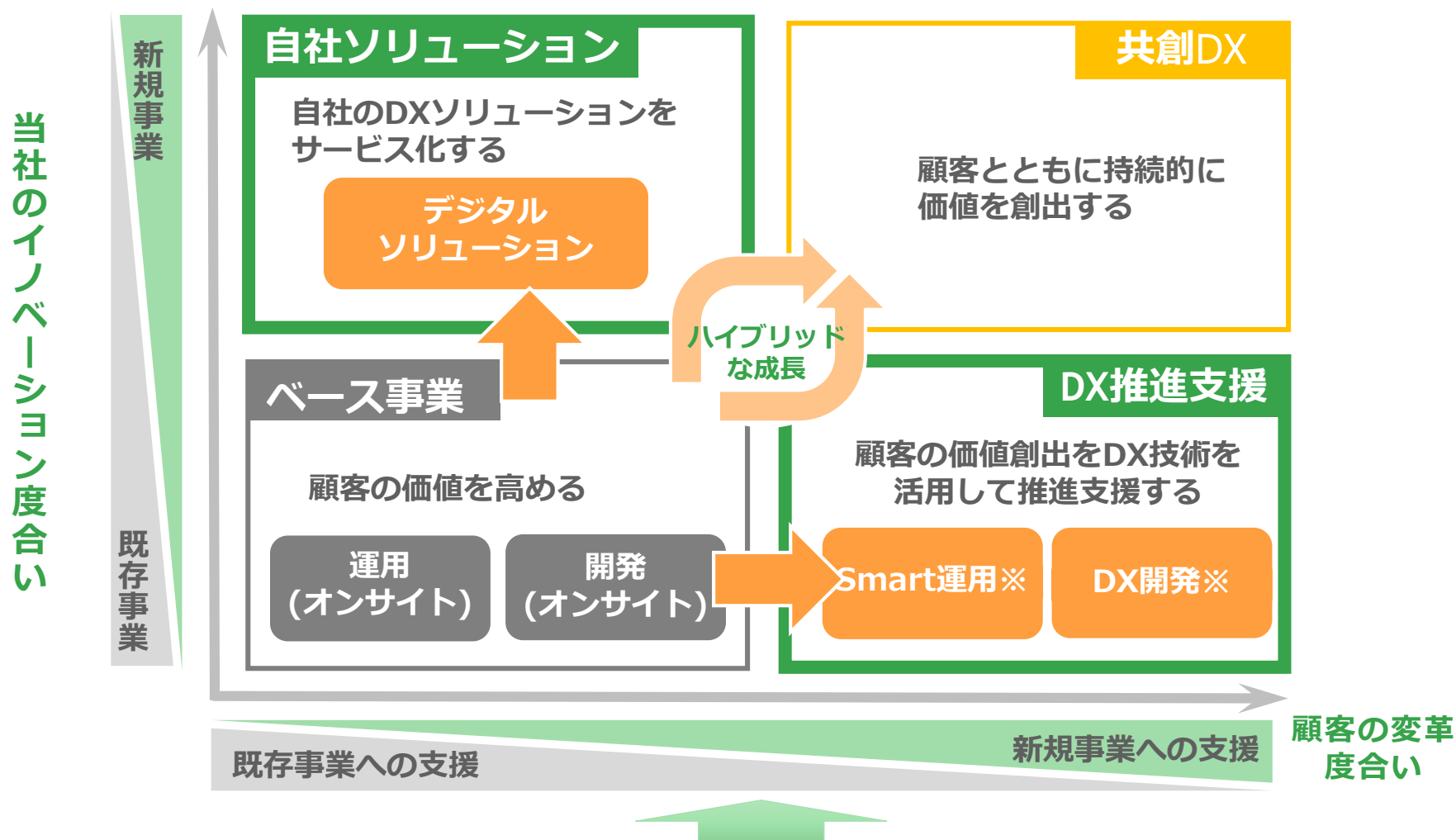


事業活動を通じてサステナビリティへの取り組みを進め、「社会課題の解決」と「企業価値の向上」の好循環を目指します。

SDGs戦略

I. ITサービス戦略 (DXポートフォリオ)

ベース事業で収益を確保し、顧客のDX推進支援&自社ソリューションを拡大



共通タスク

◆重点顧客タスク ◆戦略パートナータスク ◆BP価値向上 ◆品質管理 ◆グローバルタスク

※ 出典『情報サービス産業白書2021』P6
「DXビジネスポートフォリオ」を一部修正

※1 Smart運用：自動化ツール、クラウド、リモート等を活用したシステム運用
※2 DX開発：AI、ローコード、クラウド等を活用したソフトウェア開発

先端技術を活用して顧客のDX推進を支援

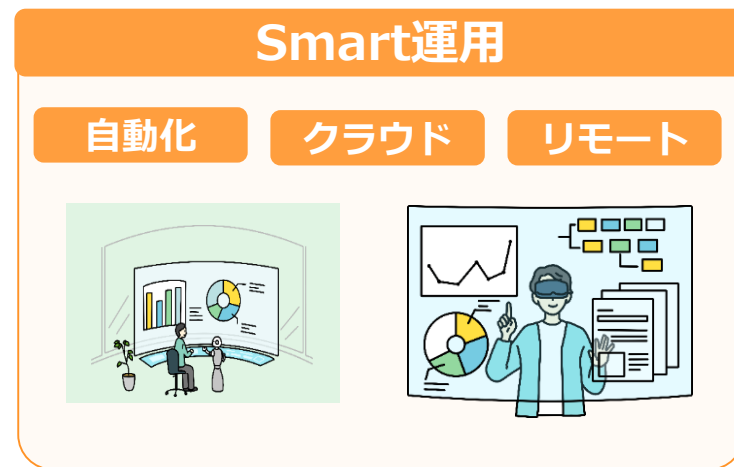


先端技術を活用した次世代型システム運営管理、ソフトウェア開発



【Smart運用】自動化ツール、クラウド、リモートを活用したシステム運用

☛ **コスト削減**だけでなく**生産性向上**、**品質改善**も同時に実現！



【DX開発】AI、ローコード、クラウド等を活用したソフトウェア開発

☛ AIサポートシステムを構築し、**障害発生時の障害検知・解析を自動化**



■ マルチクラウド&サイバーセキュリティを重要インフラ領域へ展開

ID-Cross

×

ID Ashura

マルチクラウド

セキュリティ

ターゲット

- ・ 医療
- ・ エネルギー
- ・ 公共



導入・マネージドサービス

脆弱性判別・情報提供

PC管理

RPAリモート保守



ターゲット

- ・ 製造・建設
- ・ 物流・医療
- ・ 公共



Microsoft Defender for IoT

セキュリティ アドバイザリー&スコアリング

サイバー脅威遡及分析

EDR※

サイバー防御演習

IoT

OT

IT

※ EDR（Endpoint Detection & Response）とは、エンドポイントの監視を強化し、サイバー攻撃を検出して対応すること。

さらなる成長に向けて中上級DX技術者および企画提案人財の育成を強化

◆ 人財育成施策

- ・ 日本型ジョブディスクリプション制度の構築と運用
- ・ 人財マネジメントシステム活用と戦略的人事運営
- ・ 各層の連続的な次世代育成（リスキリング）
- ・ WEB3.0世代の技術者育成（メタバース、NFT※）
※非代替性トークン（Non Fungible Token）

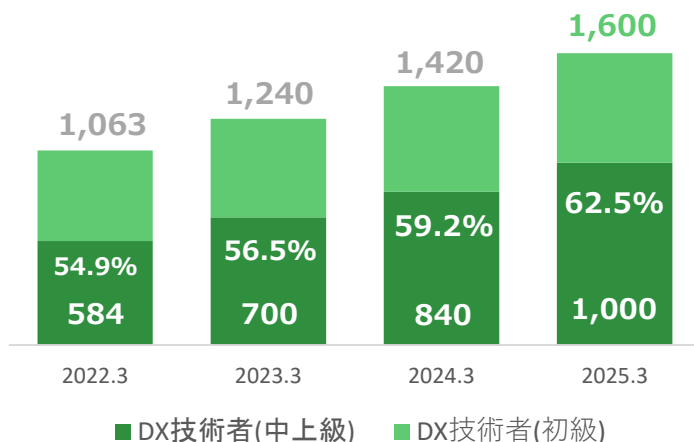


参考：2022.3実績 1.8億円

◆ DX中上級技術者の増強と企画提案人財の育成拡充

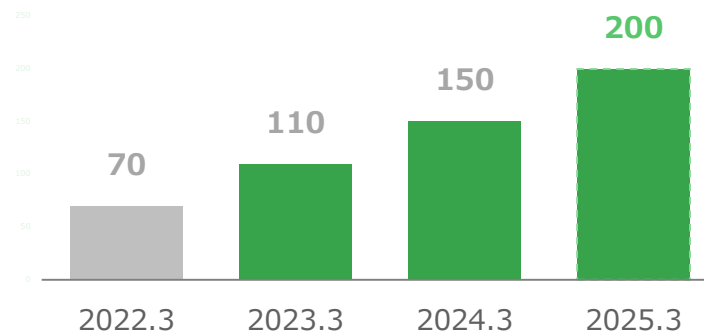
👁 DX技術者

クラウド・AI・コンテナ・IoT・セキュリティなどの設計/構築を担う中上級人財



👁 企画提案人財

新たな発想でソリューションを提案できる人財



業務効率化により管理部門を事業部門へシフトし、収益寄与分を社員に還元

業務の 効率化・簡素化



- ・情報共有基盤の導入によるデータの一元化
- ・プロセスの削除、業務のデジタル化

本社機能の 分散化



- ・山陰・海外拠点への本社機能の一部移管
- ・ヘッドオフィスとシェアードオフィスの機能の整理

経営管理・ 企画機能の強化



- ・基幹システムの刷新によるデータの集約・利活用



2025年3月期
数値目標

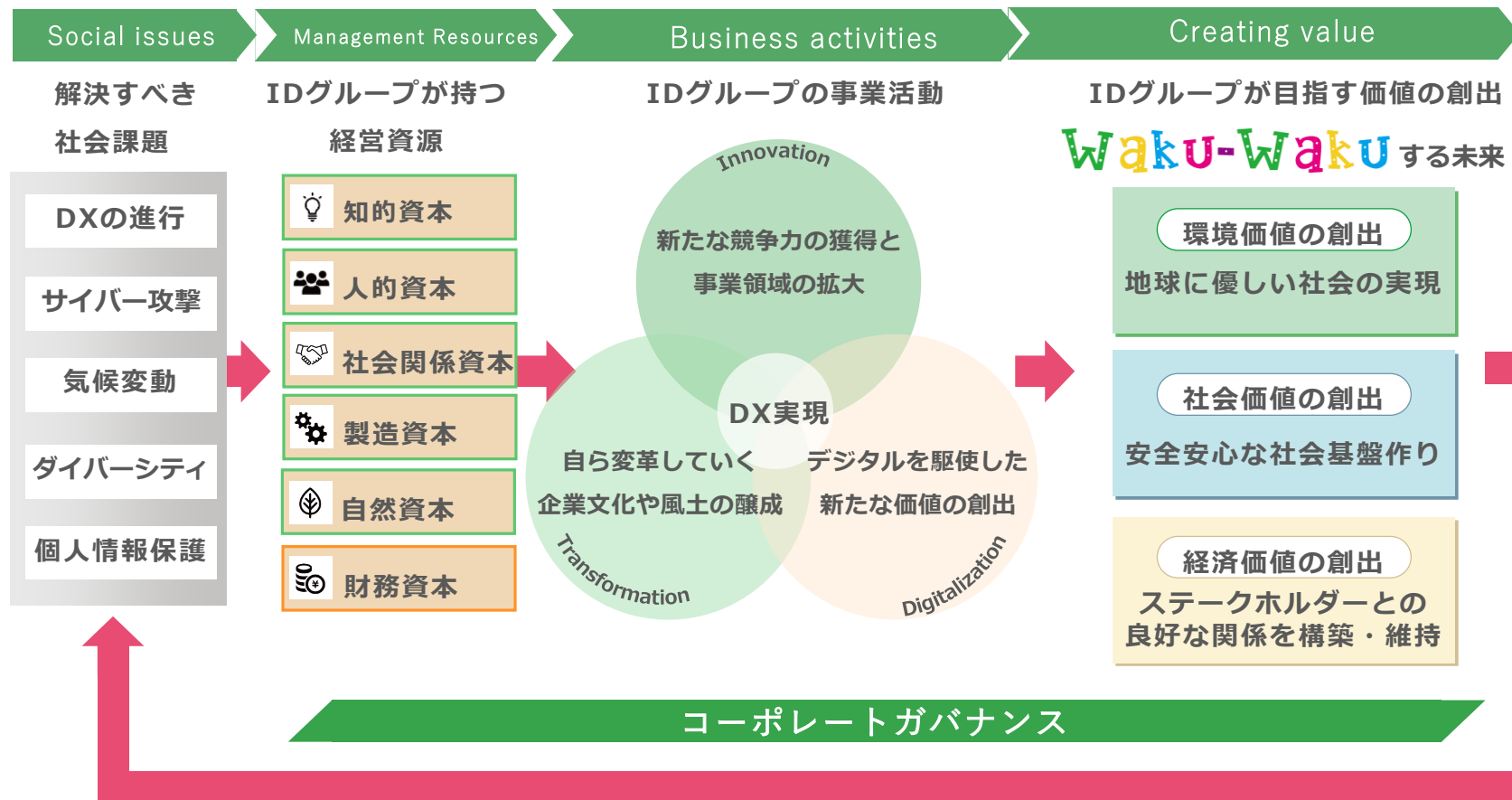
販管費率の改善
販管部門体制

17.3%※ → 13.9%
190人 → 140人

※2022.3の実績

事業活動を通じて、社会課題の解決に貢献するとともに、企業価値を向上させる

経営理念 *IDentity*



Change or Die!

価値創造エコシステム

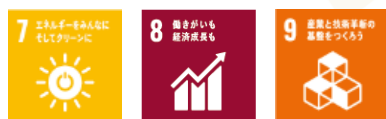
サステナビリティ課題に積極的に取り組み、3つの価値を創出する

環境価値の創出



- 環境負荷の低減
- 循環型社会の実現

経済価値の創出

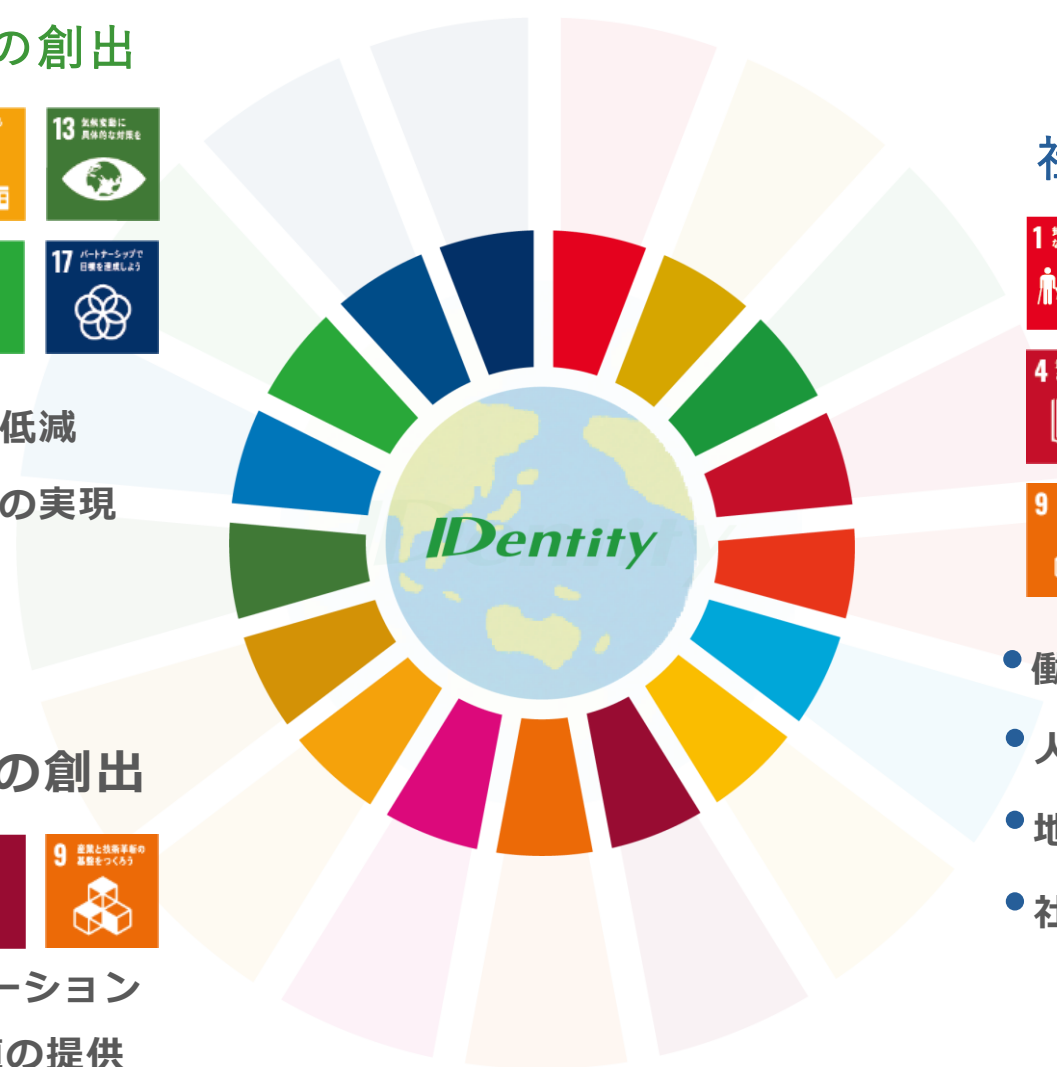


- SXソリューションによる価値の提供

社会価値の創出



- 働きやすい職場環境
- 人権とダイバーシティ
- 地域社会との共存共栄
- 社会基盤の安定化

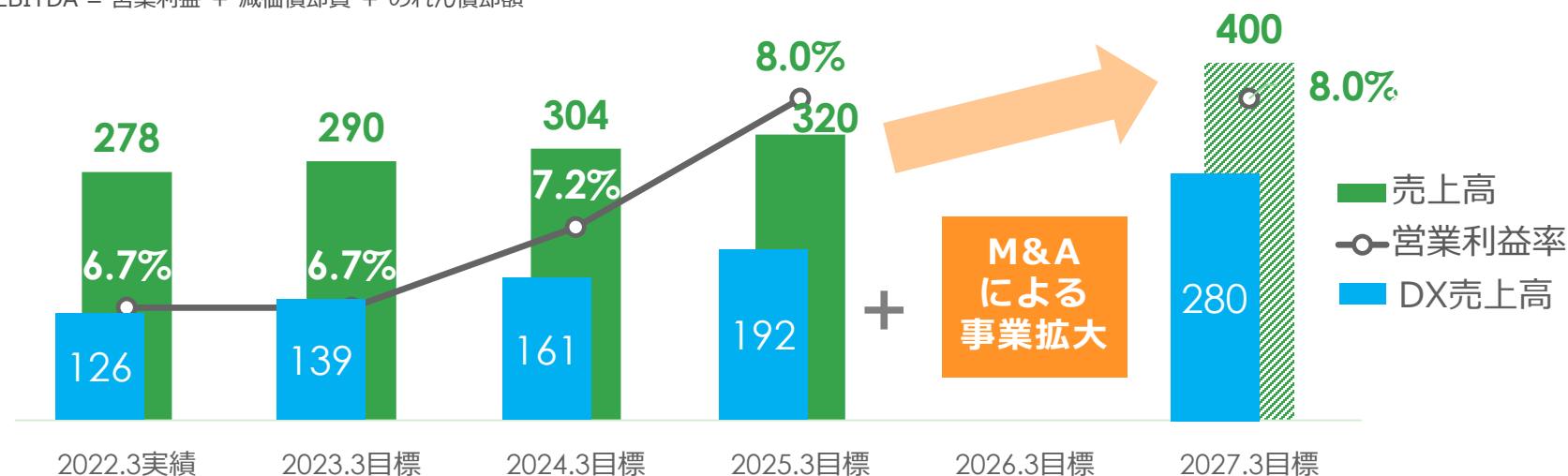


※ SX ソリューションとは、SDGsに関連する当社グループのソリューションのこと。

(5年後の数値目標)
2027年3月期

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2027年3月期
売上高	278億円	290億円	304億円	320億円	400億円 <small>※M&Aの実施を考慮</small>
営業利益 (同率)	18.6億円 (6.7%)	19.5億円 (6.7%)	22億円 (7.2%)	25.5億円 (8.0%)	32億円 (8.0%)
DX売上高 (同率)	126億円 (45.6%)	139億円 (48%)	161億円 (53%)	192億円 (60%)	280億円 (70%)
EBITDA (同率)	24.9億円 (9.0%)	25.8億円 (8.9%)	28億円 (9.2%)	31億円 (9.7%)	40億円 (10.0%)

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額



	主要KPI	2022.3 実績	2023.3 目標	2024.3 目標	2025.3 目標
ITサービス戦略	DX売上高	126億円	139億円	161億円	192億円
	DX売上高比率	45.6%	48%	53%	60%
人財戦略	DX中上級資格取得件数（年間）	264件	300件	300件	300件
	DX中上級技術者数	584人	700人	840人	1,000人
	女性従業員比率	24.1%	26%	28%	30%
	女性管理職比率	16.9%	22%	25%	30%
	外国籍社員比率	7.7%	10%	13%	15%
ニューノーマル戦略	販管費率の改善	17.3%	15.3%	14.6%	13.9%
SDGs戦略	CO2の削減（電力使用由来による） * 2021年3月期比 電力使用量	3.7%減	15%減	18%減	20%減
	紙の使用量の削減 * 2021年3月期比	17%減	17%減	20%減	23%減
	環境ボランティア活動の参加 （年間延べ人数）	173人	200人	200人	200人

免責事項

本プレゼンテーション資料には、株式会社 IDホールディングスの業績予想、将来戦略、事業計画などの将来情報や経済動向、他社との競争状況などの潜在的リスクや不確実な要素が含まれています。

これらの歴史的事実以外の情報に含まれる予測及び計画は、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断しています。

その為、実際の業績、事業展開または財務状況は、今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な原因により、記述されている将来予測及び計画とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。